



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

災害を意識した生徒による指導案作りの授業

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 榎原, 智美 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/152373

災害を意識した生徒による指導案作りの授業

The guidance plan making class by the students conscious of disasters

家庭科 榎原 智美

<要旨>

誰かに伝える、ことを目標としてまとめていく方法を考え、高校生が学習指導案を考える授業を試みた。授業者という立場を意識することで、人にわかりやすく伝えるために、正しく深い知識が必要であることを実感し、自分が伝えたいことが伝わるようにするためには、どのような方法があり、どこを強調すれば伝わるのか、などの発信を意識した授業展開とした。

予測できない未来に「主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくこと」(中央教育審議会 2017)が求められている。また、「持続可能性のとりで」を心の中に築く『持続可能な開発のための教育』があらゆる学校段階、そして生涯教育の中で求められている。(2019, 萩原)とある。そこで、生徒自身が課題を発見し、科学的に考え、協働しながら発信しようと試みる機会を持つ授業にしたい。班で話し合うアクティブな方法を取り入れ、また、否定をされないことが特徴の一つでもあるワールドカフェ方式で自由な気持ちで多くのアイデアが出せる環境を準備し、学校図書館を活用することで、多くの本や知識に触れ、仲間の意見を聞き、生徒を揺り動かす(ナッジ授業)の展開にした。

対象を①幼児②小学生③中学生④高校生⑤一般、という5つのグループに分け、発達段階を意識しながら、その対象に向けて「災害を意識した授業」を生徒自らが考え、実際の授業や活動に繋げた。

<キーワード> 高校生、災害、指導案

1 はじめに

これまで中学校において災害を取り上げた授業をしてきたが、高校生の発達段階において効果的に学べる方法はないかと探ってきた。また、家庭科において身近な生活と結びつけることや、自分の課題として「災害や防災」を捉える方法としてこの授業では、高校生自身が自分のアンテナに引っかかって来た情報をA4版1枚の作品にまとめる学習から始めた。その作品を、情報、観点の共有という視点でクラスを越えて見合うことを実施した。スタートが自分たちの作業から始まることを一つの特徴とした授業である。また、二つ目の特徴として、一つ目の特徴を深めるために学校図書館を活用したことである。2時間、学校図書館を授業場所として使用した。三つ目の特徴として、学校図書館および教室での班の話し合いの一部においてワールドカフェ方式の話し合い方法で、否定されないで話し合う環境を設定したことである。四つ目の特徴として、生徒が学習指導案を考える授業としたことである。誰かに教えることを意識することで、より深く調べ、学ばなくてはいけないという意識を持たせることをねらいとした授業である。また、人に伝えるということは、表現の方法の種類や対象を意識して

いくことになり、発信する学習になると考えた。「より深く学び、自分のこととして捉えていく、発信する」ことをねらっている。家庭基礎の学習において、授業をいかに効率的に進めていくことができるのか、というのも課題であり、今回は住居、食、保育などの多くの事項と関連させていくことができた。まずは試みとして効果的な家庭科の授業の方法を探る一つの段階と考えている。

2 授業実践

2-1 調べ学習から指導案を作る学習へ

まず、夏休みの宿題から始めて関心を持たせた。(A4版1枚)次に自分たちの作品を見合う機会を得て、情報を共有した。次に、本で調べた。その後ワールドカフェ方式で授業案について、情報を出し合い、話し合った。指導案の授業の対象を幼児、小学生、中学生、高校生、一般の5つに分け、くじ引きで班ごとに決めた。

課題においては、台風被害や大雨について、地震についてなどの内容がよく見られる題材であった。その他、昔の石碑に刻まれた津波やその被害について記したものを取り上げる生徒もいた。

まずはじめに全員が色の違う2種のシールを2枚ずつ

持ち、①情報の内容について②表現の仕方、伝え方、わかりやすさ、についてクラスを越えた課題作品に投票した。わかりやすい図を入れた非常口について調べた課題作品の一つは、②の表現の仕方、伝え方の投票シールの枚数が多くあった。後日の授業時に内容について、表現の仕方について投票した結果の紹介として、シール枚数の多かったものを30枚程度ずつ貼りだした。生徒は、どのような内容に他の人が関心があり、大切だと思っているのかを真剣に見ていた。また、表現における投票の多い作品には高い関心を示し、「このように書けばよいのか。」などつつぶやきながら、自らを振り返る姿がみられた。単に知識の積み重ねというだけでなく、互いの作品を見合うことが自分の作品のテーマや表現の仕方について再考し、深く考える一助となると感じた。自分の興味のあるメディアから入ることで、より書きやすくなり、深くなるのではないかと考えて実施したものである。題材はネット、本、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、など何でも可とした。互いの作品を見ることは単に見だけの知識の効果でなく、新しい観点として多様性があり、かつ深い内容のあるものであった。ゆえにそこに別の生徒を引き付け関心をもたせることができる効果もあった。関心を持った他の生徒は、その地点からのスタートとなり、より深い内容に届き易かったように思う。

「指導案を作る」という課題を出すことで、自分のこととして災害を捉えることができると考えた。災害について、考えるための準備・知識としての学習をある程度課すことで全く知らない、関心が無い生徒にもある程度の知識を与えることができ、同時に関心のある生徒においては更に深く、本、資料などを用いることで学習することができると思った。

2-2 授業

(1) 単元計画

第1次 レポート作品を観点を決めて、内容・着眼点および発信者としての表現の評価活動を通して、評価の観点を意識する練習をして、ワールドカフェ方式で、否定をしない情報共有を行い、指導案を作成する。(3時間)

第2次指導案を模擬授業を通して、クラスに発信する。(1時間) 本時

第3次 授業実施と振り返りで、内容・着眼点および発信について考え、深める。(2時間)

対象 2年A組(男子20名、女子22名計42名)

単元名「災害を意識した授業を考える」

(2) 単元の目標発達段階により、どのような内容を取り

上げることが災害や防災の授業学習に適するのかを考えることができる。また、指導案を考えようと努力することができる。授業の評価の観点について考えながら災害を意識した授業を生徒が考えることができる。

(3) 単元設定の理由

・生徒たちの実態および本単元に至るまでの学習

2年生から家庭基礎2単位を履修し、1学期調理実習3回、栄養理論、2学期教育実習生が担当し高齢者、車椅子実習、終了後調理実習、現在エプロンを製作中である。夏休みの宿題の災害、防災関連事項のA4版1枚のまとめを作成し、今回の授業の導入としている。調理実習、エプロン製作ともに意欲的に取り組んでいるが、日常的に家庭で実習関連事項に触れる機会は少ないように思われる。特に知識として学んだ既習理論が実習時に繋がらない場面がある。この結びつけがこれからの課題である生徒たちである。

・教材の特性と授業者の手立て

各自で災害についてまとめたお互いのレポート作品を、クラスを超えて見合い、観点を各自で決めて、その内容及び着眼点について評価をする活動と発信者としての表現の仕方についての評価を行った。その後、学校図書館の災害・防災関連の本を読み、授業対象年齢を決めた上で災害・防災関連の本についてまとめ、ワールドカフェ方式で意見を出し合い、情報を共有した。

①本時のねらい

災害レポート作品の評価活動、発信者の表現の仕方の評価活動の練習後のワールドカフェ方式での意見を出し合い、情報の共有を経ての指導案作成とその模擬発表での根拠を持った内容の取り上げと伝え方について考える。

②本時の授業展開

間時	学習の流れと生徒の活動	教員の指導と手立て
10分	今までの学習の振り返り。指導案で取り上げた内容とその理由、評価の観点をまとめる。	p p を用いて、学習の流れの振り返りを促す。資料の活用を伝える。
30分	指導案を模擬授業を通して、クラスに発信する。	模擬授業の仕方の説明を行う。自分の考えを伝えることを意識させる。
10分	指導案の内容・着眼点および発信について考え始める。対象者への授業実施について知る。	授業実施等について説明する。保育園、小学校、野外実習について伝える。



授業説明



模擬授業の発表



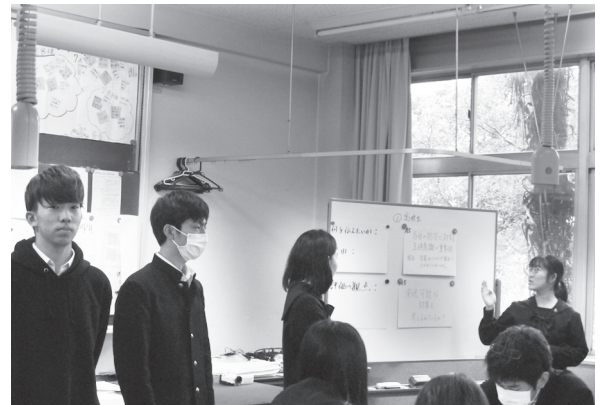
班の授業案流れの相談



模擬授業と生徒授業説明



班の相談



授業評価の観点の説明



各班で自分たちの授業の評価観点を相談

生徒プリント

家庭基礎

2019. 10月～

2年 組 番 氏名

1. 防災・災害についての仲間の作品を読んでみよう！
 ① 1人 2枚の赤シールを、取り上げたテーマ・内容の観点から、共感、同感、すごいなあ、などを感じた作品2点に貼る。シールは円になるように綺麗に貼ること！
 ② 作品のまとめ方、書き方の観点から、1人 2枚の緑のシールを貼る。
 (どちらも自分以外のものから選ぶ。)

2. なぜ選んだのか、ポイント、評価の観点を書く。
 1. の①テーマ・内容の赤シール 2年 組 番 () さんの作品・題 ()

選んだポイント、評価の観点：

1. の①テーマ・内容の赤シール 2年 組 番 () さんの作品・題 ()

選んだポイント、評価の観点：

1. の②まとめ方、書き方の緑シール 2年 組 番 () さんの作品・題 ()

選んだポイント、評価の観点：

1. の②まとめ方、書き方の緑シール 2年 組 番 () さんの作品・題 ()

選んだポイント、評価の観点：

3. 他の人の作品を見て、読んで、新しく知ったことや 新たに気付いたこと。

4. 学校図書館の本を読んで、防災・災害について、わかったこと、新しく知ったこと等。

① 選んだ本の題 ()
 書誌情報：
 なぜ、その本を選びましたか？その理由：

 本を読んで、わかったこと、新しく知ったこと：

選んだお題は、1と2班、3と4班、5と6班、7と8班、9と10班が共通。奇数班の代表のくじ：幼児、小学生、中学生、同世代の高校生、一般、への授業50分を計画する。

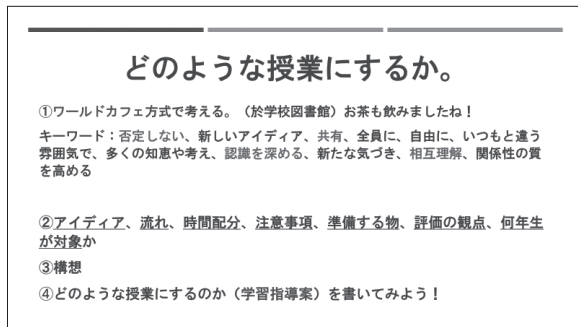
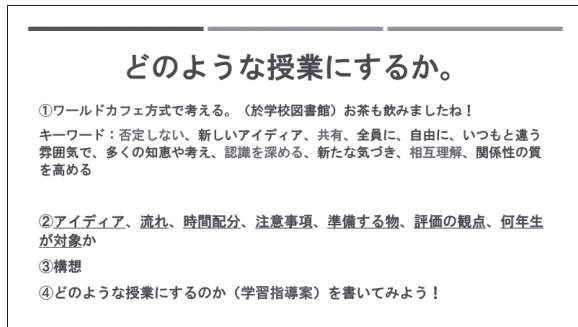
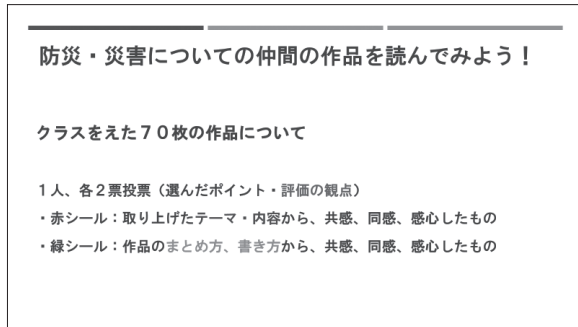
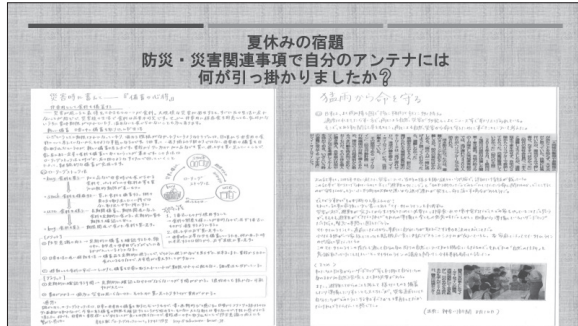
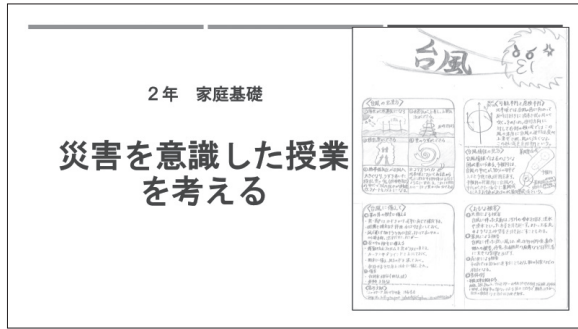
ワールドカフェ方式で考える。ワールドカフェでいろいろ知って、考えたら(裏面へ)

どんな授業にするか、自分メモ(自由にどうぞ!)：

アイデア、流れ、時間配分、注意事項、準備する物、評価の観点、児童・生徒の場合何年生が対象等

構想、中間まとめ：

授業使用pp



ワールドカフェ方式の話し合いでは、否定されず自由に話し合うことが条件になる。

3 結果

この後、代表者による授業実施とその情報の共有をする予定である。

授業後のワークシートとアンケート結果から：

「災害、防災関連」授業の5ワードを書いてもらった。5つのうちの一つを最重要ワードとしてあげてもらった。その結果、A組では最重要ワードとして、

「対策」「地震」「避難」「命を守る」「命」複数の生徒があげ、その他の生徒は「備え」「真剣」「防災意識」「文献調査」「過去から学ぶ」「協力」「危険」「訓練」「避難」「水」「安全」「避難所」「社会の一員としての意識」「公助」「防災バック」「減災策」「想定」「危機感」をあげていた。

また、「災害、防災の授業案作り」は今後にいかにせると思うかの問いには「自分のきょうだいや知り合いの子供に教えることができたなら良いと考えるから」などの回答もあった。

4 おわりに

災害について日頃から考えておくことは大切であると考える。住生活・食生活にも繋がる日常を意識することになる。これからの日本においては、日常の中で考え、共に生活をしていく事項であると思う。特別なことにしないこと、正しい知識を得ようと日々、努力する日常こそが快適で安全な生活に繋がると思うので、是非今回の授業を発展させていきたいと考える。

今回、授業対象者を「幼児、小学生、中学生、自分たち高校生、一般」にし、代表者が授業を行う、または、その内容で、その学校の教員から授業をしてもらうことを想定して授業指導案を作ることにより、実際に保育園や小学校で授業ができる話が進んでいくことになり、連携という別の効果もあったように感じる。

また、生徒が授業を考えることで、ループリックを考えながら進めることの効果もあったように感じる。評価を考える時に自分への評価を考えなくてはいけない。そのような意味から、今回は誰かに伝える、ということを目標としてまとめていく方法が、授業者という立場を意識し、人にわかりやすく伝えるために、正しく深い知識が必要であることを実感したように思う。方法や強調すべきことなどの発信を意識することで、学習指導要領でもうたわれている、情報発信や振り返って考えることが、活動の中に入るということが可能になった。実際に幼児、小学生、中学生、自分たち高校生、一般に対して代表者が授業を行う、または、その内容で、その学校の教員から授業をしてもらうことを想定することでリアルに考え、モ

チベーションにも繋がった。今回の授業を踏まえて、希望者で災害を意識した野外炊事をオリンピックセンターで行うことができた。紙面上細かいことは、割愛するが、確実に次の発想にも実技にも繋がっていくと思う。

防災授業の実施については教育課程のどこで行うことが効果的で、どこまで繰り返すは必要なのか。多くの教科の授業で行うのか良いのか、その内容に適したものは何なのか、などのこれから考えていかなければいけないことも多くあると思う。実施にはその体制作りが大切だと考える。

今回の、高校生が授業を考える授業は、コミュニケーションをとることに繋がるように感じた。また、深い学びに繋がる要素が授業内に多くあり、その部分を拾っていくことでも授業としての更なる効果を期待できるように思う。自分の日常としていく授業を家庭科では常に考えたい。

今回取り入れた、ワールドカフェ方式の授業は高校生にとってどのような作用があるのかを、更にアンケートなどから探りたい。アクティブなラーニング・デザインとして、他の方法も今後試み、高校の授業での取り入れ方の形を考えていきたい。また、学校図書館を利活用する授業は高校生にとってどのような効果があるのかなども探りたい。広く防災・災害について考えることで、SDG sに繋げていくことは可能なのか、などを今後の授業で検証したい。「主体的・対話的で深い学び」や「カリキュラム・マネジメント」に繋げるための授業を今後どのように考えていくべきかを今回の授業を軸に再構築していくことが今後の課題である。